

会よりのお知らせ

幹事長に選出されて

大 頭 仁

最近、友人にすすめられて囲碁を始めてみた。やっと死活の基本がわかり、目数をおぼろげながら理解できる程度の、いわゆる「ざる碁」である。上手な人と対局すると、いくら置石をさせてもらっても勝てない。「段違い」という言葉が身にしみてわかる情けない次第である。しかし、下手は下手なりに碁の面白さ、その変化の妙味さにとり憑かれている。とくに布石とそれを活かす技術である。隅を生きることに汲々としていると大局は必ず失敗に終わる。かといって、無謀に手を抜げると、悲しいかな大惨事を招く。緻密な計算と、経験と訓練そしてそれから得られる勘、そしてまた積極性がないと碁には勝てないらしい。

さて、光学懇話会という歴史のある学会の幹事長に選出され、その責任の重大さを感じ、これからの2年間どのようにその重責を果たすべきかに頭を悩ましている。幸いなことに、歴代の幹事長、幹事および会員の努力によって、当会は碁盤上に譬えると生き石の多い状態で、また重要な布石も多く置かれているようである。どちらかといえば、堅実過ぎる石が多く、他の学会に比較すると手を伸ばすべき分野が大変多いにもかかわらず、消極的でせつかくの布石への道が閉ざされている嫌がある。諸先輩の置かれた布石を活用して、若い会員諸君の積極的な意志を育てながら、中盤の手を模索していくことが今期の幹事会に課せられた役割ではないかと思う。

囲碁の中盤は、周囲状況との駆け引きらしい。境界条件を正しく判断しながら、積極的に勢力を盛り立て、できる限り有効な布石に辿り着かなくてはならない。ここで、以前読んだパーキンソンの法則の一部を思い出した。狭い専門家集団による会議には欠陥のあること、つまり会議体には、必ず異なった分野の専門家を1人は入れるべきであるということ。光学懇話会が、狭い光学分野の研究者のみのサロンと化さないように、なるべく広い視野に立って今後の光学の発展に寄与できるように、その活路を見いだしたいと思う。

現在、光学懇話会には五つの研究グループがある。これらの会は中堅および若手研究者を中心に、会員外のメンバーを含めて広く活発に活動している。光学懇話会発足当時の姿をこれらの研究グループの中に見いだすことができる。若手の研究意欲とそのエネルギーを育てることが学会の第一の任務であると考えている。懇話会の運営に当たっては、内部で動脈硬化を起こさないように弾力性をもたせながら常に活性化したい。

幹事諸兄のご協力と、会員皆様のご支援、ご鞭撻を心からお願いする次第である。(早大理工)

編集委員長に任命されて

鈴木 健夫

光学懇話会とは長い間なにかとかかわりをもってきたが、ついに大任を仰せ付かり、とまどいを感じている。しかし、微力ながら全力をつくしてより良い会誌をめざして努力をおしまず責任を果たしていかなければと思っている。

光学も巻を13まで数えるようになり、雑誌のキャラクターも定着してきた。ここに至るまでに

は先輩諸氏の努力によりいろいろな障害を乗り越えねばならなかったことであろう。最近の事情では長年にわたった発行業務の依頼先を都合により変更した経緯があり、それから約1年が経過した。この新しい態勢にもようやく慣れてきたので、今までの積重ねの上にこれからさらに良い会誌作りを進めていく環境が一つそろったといえよう。しかし内容を豊かに発展させたいという志向と限られた出版予算という相いれない事象にはさまれた中で最善の道を探し続けることは今後も必要である。

過去において、しばしば発行の時期が遅れたことがあった。内容の充実が最も大切であることにはちがいないが、定期刊行物である以上は決められた日程に乗せて読者に送りとどけることが編集委員会の義務であることを深く確認しあおう。また光学の特徴の一つになっている地方編集の特集号は中央集権的になりやすい傾向を抑止する効果があり、地方の風土の中に育った光学を発掘して、その情報を全国の会員に提供するという大変有意義な制度であり、今後もこれを十分活かしていくべきであろう。

これからも読みやすさ、親しみやすさを求めながらもその中にわが国唯一の光学専門の学術誌としての権威を調和させて、光学懇話会の発展の基礎となるような会誌づくりに編集委員一同とともにながらばりたいと思っている。
(NHK 基礎研)

○ 昭和 59 年度幹事

昭和 59 年度幹事は次の方々に決定しました。

● 新任の幹事

石原 聰(電 総 研) 左貝 潤一(武蔵野通研)
 一岡 芳樹(阪 大 工) 佐久間伸夫(リ コ ー)
 伊藤 雅英(東 大 生 研) 鈴木 健夫(NHK 基礎研)
 岩田 耕一(阪 府 大 工) 世古 淳也(慶応大理工)
 梅垣 真祐(東 大 工) 武田 光夫(電 通 大)
 大津 元一(東工大交流セ) 得丸 祥(ミノルタ)
 大塚 喜弘(北 大 工) 野口 勝(富士フィルム)
 大坪 順次(機 械 技 研) 日江井栄二郎(東京天文台)
 小野 雄三(日 本 電 気) 藤原 史郎(筑波大物工系)
 海津 優(国土地理院) 松尾 博文(旭 光 学)
 河原 哲夫(東 海 大 工) 三品 博達(千葉大工)
 小池 雅人(島津製作所) 安田 賢司(富士写真光機)
 小宮 康治(東 京 光 学)

● 留任の幹事

稲垣 雄史(富 士 通 研) 北出 篤夫(名 大 工)
 岩木 明人(東 芝 総 研) 久保田敏弘(京都工織大)
 大江原弘昌(京 セ ラ) 小島 忠(小 西 六)
 大頭 仁(早 大 理 工) 近藤 英樹(日 写 研)
 大和田芳子(計 量 研) 今野 邦男(日本光学)
 片岡 慶二(日 立 中 研) 佐藤 平八(防 衛 大)
 菊池 和朗(東 大 工) 佐柳 和男(キ ャ ノ ン)
 菊池 恭孝(ユ ニ オ ン) 高島 幸史(東北大科研)

滝沢 國治(NHK 基礎研) 本田 捷夫(東 工 大 工)
 中島 俊典(理 研) 南 茂夫(阪 大 工)
 布下 正宏(三菱電機中研) 峯木 工(神 戸 大 工)
 畑田 豊彦(東京工芸大工) 山下 伸夫(オリンパス)
 兵藤 直規(小 原 光 学)

○ 昭和 59 年度常任幹事

昭和 59 年度常任幹事および役務分担は次のとおり決定しました。

幹事長 大頭 仁
 編 集 鈴木 健夫 本田 捷夫(文献抄録)
 庶 務 今野 邦男(波 外) 三品 博達(幹事会)
 中島 俊典(出 版)
 会 計 山下 伸夫(収 支) 伊藤 雅英(予 算)
 事 業 大坪 順次 佐柳 和男
 小野 雄三 滝沢 國治
 片岡 慶二 野口 勝
 佐久間伸夫 畑田 豊彦
 関 西 一岡 芳樹 布下 正宏

○ 昭和 59 年度編集委員

昭和 59 年度編集委員は次の方々に決定しました。

委員長 鈴木 健夫(NHK 基礎研)
 委 員
 青木 貞雄(筑波大物工系) 岩田 耕一(阪 府 大 工)
 石原 聰(電 総 研) 鶴飼 一彦(北 里 大 医)

小野 雄三(日 本 電 気) 永田 浩(日 本 光 学)
 上西 克二(東 北 大 科 研) 本田 捷夫(東 工 大 工)
 北出 篤夫(名 大 工) 松田 浄史(機 械 技 研)
 黒田 和男(東 大 生 研) 南 節雄(キ ャ ノ ン)
 桜井 国雄(小 西 六) 三宅 洋一(千 葉 大 工)
 庄野 裕夫(青 学 大 理 工) 山中 正宣(阪 大 工)
 高井 信勝(北 大 応 電 研) 山本 公明(オ リ ン パ ス)
 武田 光夫(電 通 大) 吉田 稔(岐 阜 大 教 養)
 中島 俊典(理 研)

○ 昭和 59 年度文献抄録委員

昭和 59 年度文献抄録委員は次の方々に決定しました。
 委員長 本田 捷夫(東工大工)

委 員

石川 純(計 量 研) 立原 悟(旭 光 学)
 伊藤 雅英(東 大 生 研) 立野 公男(日 立 中 研)
 井辺 博之(東 芝 総 研) 田部井 誠(東 工 大 精 研)
 梅田 倫弘(静 大 電 子 研) 中原 宗雄(小 原 光 学)
 大山 永昭(東 工 大 工) 南波 昭宏(オ リ ン パ ス)
 岡田 勝行(千 葉 大 工) 浜中賢二郎(パ イ オ ニ ア)
 鎌田 憲彦(NHK 基礎研) 松岡 和彦(キ ャ ノ ン)
 窪田 恵一(日 本 電 気) 松本 宏一(日 本 光 学)
 久米祐一郎(早 大 理 工) 宮前 博(小 西 六)
 斎田 真也(製 科 研) 横森 清(リ コ ー)
 柴田 宣(茨 城 通 研)

○ 光学懇話会規則の一部改正について

昭和 59 年度よりの会費の改訂および会員資格審査基準の制定にともなう下記のような光学懇話会規則(「光学」第 11 巻第 4 号(1982 年 8 月)掲載)の一部改正が昭和 58 年 10 月 24 日の応用物理学会理事会および昭和 58 年 9 月 2 日と昭和 59 年 1 月 17 日の光学懇話会常任幹事会において承認されました。昭和 59 年 1 月 1 日に遡及して実施されます。

現 行

4. 会 員

- 1) 本分科会は前項の目的に賛同する応用物理学会員(B会員), および本分科会が加入を認め応用物理学会理事会がそれを承認した者(A会員)をもって組織する。
- 2) 分科会員は本分科会の事業に限り参加することができる。
- 3) 本分科会の名誉を毀損し, または本分科会の目的に反するような行動があった時, および会費滞納が

連続 2 カ年以上になる場合は分科会は学会理事会の承認を得て除名することができる。

5. 会 費

- 1) 分科会員は次の分科会費を 12 月末日までに前納するものとする。

A 会 員 年 額 4,300 円

B 会 員 年 額 4,300 円

- 2) 会費を 6 カ月以上滞納した時は会誌の発送を停止する。

改 正

4. 会 員

- 1) 本分科会は前項の目的に賛同する応用物理学会員(B会員), 本分科会が加入を認め学会理事会がそれを承認した者(A会員)および本分科会が加入を認め学会理事会がそれを承認した機関(特別会員)をもって組織する。

- 2) A会員, B会員および特別会員の資格審査は分科会の会員資格審査基準にのっとるものとする。

- 3) 現行の 2)

- 4) 分科会員(特別会員を含む)は機関誌「光学」の配布を受ける。

- 5) 現行の 3)

5. 会 費

- 1) 分科会員は次の分科会費を 12 月末日までに前納するものとする。

A 会 員 年 額 6,000 円

B 会 員 年 額 6,000 円

特別会員 年 額 7,000 円

- 2) 現行のまま

なお, 1.~3. および 6.~8. は現行のままです。

○ 昭和 58 年度第 4 回常任幹事会

昭和 59 年 1 月 17 日(火)に東京, 虎の門の第 9 森ビルにおいて開催され, 「光学」の編集, 会計, 講演会・講習会の計画, テクニカル・カウンシルなどについて報告と審議が行なわれました。

○ 昭和 58 年度第 5 回常任幹事会

昭和 59 年 2 月 21 日(火)に上記の第 9 森ビルにおいて開催され, 「光学」の編集, 講演会・講習会の計画, 昭和 59 年度総会への提出議案などについて報告と審議が行なわれました。

○ 昭和 58 年度第 5 回編集委員会

昭和 59 年 1 月 13 日 (金) に東京, 本郷の学士会分館において開催され, 「光学」各号の編集状況と企画などについて報告と審議が行なわれました。

○ 第 17 回光学五学会関西支部連合講演会報告

昭和 59 年 1 月 27 日 (金) に大阪駅前にある大阪市立大学文化交流センターで行なわれました。テーマは「光電子材料と光素子」であり, 半導体レーザーや光ディスクメモリー材料, アモルファスシリコン, ディスプレイ用材料などについて, それぞれの第一線で活躍されている方々による講演がありました。今回の講演会は非常に好評で, 申込み締切り日にはすでに 100 名以上の申込みがあり, それ以降に申し込まれた方 25 名あまりに対してはお断りしなければなりません。結局, 当日は 104 名の参加があり, 会場が狭いこともあって, ムンムンする熱気の中で講演が行なわれました。参加者のうち, 25 名ほどは近畿以外の方で, 宮崎県から関東まで広く分布していました。また, 参加費が安かったためか学生の参加が多かったのも今回の特徴でした。

(幹事 岩田, 布下)

○ 昭和 59 年度光学懇話会春季講演会のお知らせ

昭和 59 年 5 月 18 日 (金) に東京, 中目黒の国際電信電話株式会社研究所において見学会を兼ねて開催されます。詳細は本号別掲のプログラムをご覧ください, お早めに参加申込みをしてください。

○ 第 9 回光学シンポジウムのお知らせ

昭和 59 年 6 月 5 日 (火) に東京, 六本木の東京大学生産技術研究所において開催される第 9 回光学シンポジウムのプログラムが本号別掲のように決まりました。多数の皆様が参加されるようお願いいたします。

○ 第 1 回色彩工学コンファレンス論文募集のお知らせ

昭和 59 年 11 月 20 日 (火), 21 日 (水) に東京, 芝公園の機械振興会館において開催予定の第 1 回色彩工学コンファレンス (第 30 回光学四学会連合講演会) の論文を募集しております。詳細は前号掲載の論文募集をご覧ください, お申込みください。応募締切は 7 月 7 日 (土) です。

○ 第 15 回画像工学コンファレンス論文募集のお知らせ

昭和 59 年 11 月 26 日 (月) ~ 28 日 (水) に東京, 大手町の農協ホールにおいて開催予定の第 15 回画像工学コンファレンスの論文を募集いたします。詳細は本号巻末綴込みの論文募集をご覧ください, お申込みください。応募締切は 6 月 30 日 (土) です。

○ 微小光学研究グループよりのお知らせ

● 第 12 回微小光学研究会の予定

日 時: 昭和 59 年 4 月 13 日 (金) 13:00~17:00
場 所: 電子技術総合研究所 D棟 8 階大会議室

茨城県新治郡桜村梅園 1-1-4

演 題: 1. 特別講演「微小光学に期待する」 島田潤一 (電総研) 2. 国際会議報告 OFC '84 小林功郎 (日本電気) 3. イオンエッチングによるホログラム格子の鋸歯状化 小野雄三, 西田信夫 (日本電気) 4. 熱光学効果を利用した光変調素子 箕浦一雄 (キヤノン) 5. 屈折率分布ロッドと均質凸の複合レンズ 菊地啓介 (電総研) 6. モードスクランブラ付多モード導波路型分光岐回路 国分泰雄 (横国大) 7. ゴルゲル法による光導波路の作製 山田 武 (茨城通研) 8. 電総研見学

資料費: 1,000 円 (お茶代を含む)

懇 親 会: 日 時: 当日 18:00~

場 所: ゆうもあ村

トピックス: 微小光学の夢を語る

参加費: 8,000 円 (宿泊料込)

参加申込: 前もって下記の西沢まで

問合せ先: 〒305 茨城県新治郡桜村梅園 1-1-4

電子技術総合研究所 三橋慶喜, 菊地啓介
電話 0298-54-5338

〒300-26 茨城県筑波郡豊里町東光台 5-4

日本板硝子株式会社筑波研究所 西沢敏一
電話 029747-8681

● 特別講演会の予定

日 時: 昭和 59 年 5 月 23 日 (水) 13:00~16:00

場 所: 東京大学生産技術研究所 3 階第 1 会議室
東京都港区六本木 7-22-1

演 題: 1. Some Recent Advances in Optical Physics Emil Wolf (Rochester Univ.)
2. Gradient Index Optics in Bulk Materials Dancun T. Moore (Rochester Univ.)

問合せ先: 日本板硝子株式会社 西沢紘一 (上記参照)

○ 光計測研究グループよりのお知らせ

● 第13回光計測研究会の報告

昭和59年2月27日(月)に東京大学生産技術研究所において17名の参加者を得て、「長さ標準用レーザーの波長を測る一実時間波長比較干渉計の試作一」(計量研, 石川 純)および「カラー・デンシトメリーによる燃焼解析」(東工大, 神本武征)の講演があり, 活発な質疑討論が行なわれました。

● 第14回光計測研究会の予定

日 時: 昭和59年4月23日(月) 13:30~17:00
 場 所: 東京工業大学精密工学研究所 6階大会議室
 東急田園都市線すずかけ台駅下車徒歩5分
 演 題: 1. スキャッター・プレート干渉計による鏡面検査 蘇 徳欽(東工大像情報)
 2. 光計測のニーズとシーズの間一振動計測を中心にして一 上羽貞行(東工大精研)
 見学会も併せて行ないます。

参加費: 300円

問合せ先: 〒351 埼玉県和光市広沢 2-1
 理化学研究所光学計測研究室 山口一郎
 電話 0484-62-1111 内線 3242

○ ホログラフィック・ディスプレイ研究グループよりのお知らせ

● 第24回ホログラフィック・ディスプレイ研究会の予定

日 時: 昭和59年5月25日(金) 13:30~17:00
 場 所: 多摩美術大学上野毛キャンパス
 旧図書館1階会議室 電話 03-702-1141
 東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分
 演 題: 1. 美術系大学におけるホログラフィーの教育とその利用法
 勝間ひでとし(多摩芸術学園)
 2. リップマン・ホログラムを目的とした銀塩感材の膨潤法 池上皓治(沼津高専)
 3. ソ連のディスプレイ・ホログラムの動向について 永田忠昭(月光荘)

問合せ先: 〒227 横浜市緑区長津田町 4259
 東京工業大学工学部像情報工学研究施設
 本田捷夫 電話 045-922-1111 内線 2090

○ 光コンピュータ研究グループよりのお知らせ

● 第1回光コンピュータ研究会の報告

昭和59年2月28日(火)に東京大学生産技術研究所において開催しました。話題は, 光論理素子(東北大通研, 伊藤弘昌), 光シストリック演算(電総研, 石原 聰)の2題。会の運営としては, 年4~5回研究会を開催すること, ニュースレターを発行すること, 年会費(2,000円)を徴収すること, 下記の世話人などを決定しました。最初の研究会ということもあって参加者は約50名であり, 光学以外の研究者(情報科学など)も多数出席しました。入会希望者は, 世話人に連絡してください。

世話人: 石原 聰(電総研), 伊藤雅英(東大生研), 世古淳也(慶大理工), 田村秀行(電総研), 中橋末三(理研), 谷田貝豊彦(筑波大物工)

● 第3回光コンピュータ研究会の予定

日 時: 昭和59年6月4日(月) 14:00~17:00
 場 所: 東京大学生産技術研究所 3階第1会議室
 地下鉄千代田線乃木坂駅下車徒歩3分
 演 題: 1. 最近の並列処理計算機のアーキテクチャ
 坂東忠秋, 阿部重夫, 小林芳樹(日立日立研)
 2. 光空間変調素子
 窪田恵一, 西田信夫(日電光エレ研)

問合せ先: 〒305 茨城県新治郡桜村梅園 1-1-4
 電子技術総合研究所 石原 聰
 電話 0298-54-5338

○ 新入会員

会員番号	氏名	所 属
A 1898 (B-1123ヨリ)	鈴木 正良	
1899	佐久間伸夫	(株)リコー
1900 (B-1268ヨリ)	末光 尚志	パイオニア(株)半導体研究所
1901	佐野 泰三	大和製缶(株)
1902	加藤 純雄	三菱電機(株)京都製作所
1903	布目 健治	エステーエヌ東洋ベアリング(株)
1904	折野 干城	(株)デルファイ
1905	山本 将史	北海道大学
1906	有富 光利	三菱油化(株)中央研究所
1907	螺良 伸一	東芝(株)那須工場
B 1337	澤田 亮	富士通厚木研究所
1338	川本 義貴	住友スリーエム(株)相模原工場

*入会申込み先: 応用物理学会光学懇話会

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 209号の2 電話 03-434-6659

光学懇話会“春季講演会”のお知らせ

光学懇話会では下記のとおり講演会と見学会を開催いたします。

日 時：昭和 59 年 5 月 18 日（金） 13：30～17：00

場 所：国際電信電話株式会社研究所

〒153 東京都目黒区中目黒 2-1-23（案内図参照）

電話 03-713-0111

プログラム：1. 研究所紹介 13：30～14：00

研究所副所長 野坂邦史

2. 講演 14：00～15：30

(1) InGaAsP 系半導体レーザーおよび APD (30 分)

電子回路研究室長 山本果也

(2) 光海底ケーブル伝送技術 (30 分)

有線システム研究室長 岩本喜直

(3) 光磁気ディスクメモリ (30 分)

材料部品研究室長 今村修武

3. 見学 15：30～16：30

電子回路研究室，有線システム研究室および材料部品研究室

4. 質疑応答 16：30～17：00

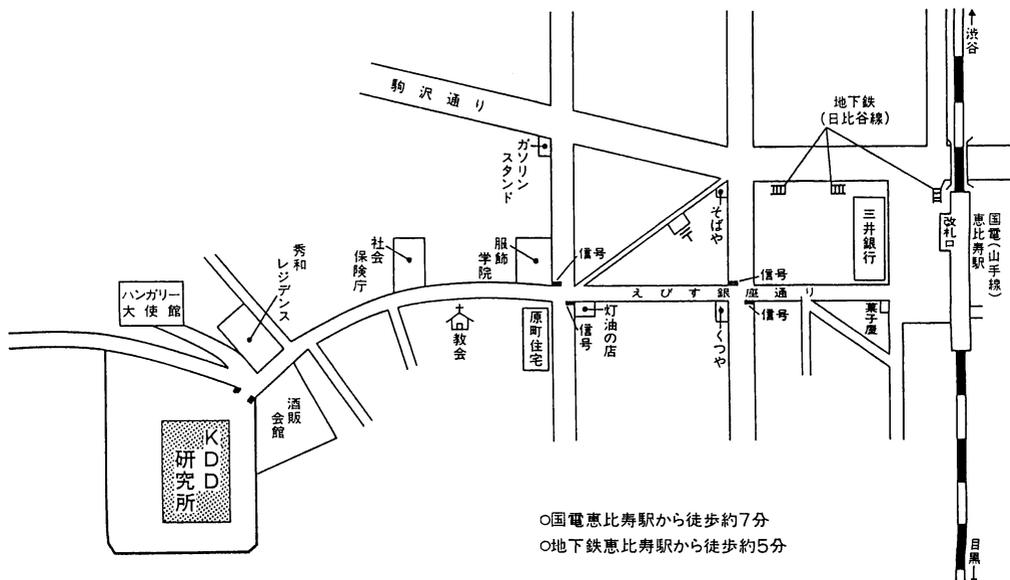
参加費：無料

定員：40 名（申込み順）

参加申込みおよび問合せ先：〒157 東京都世田谷区砧 1-10-11

NHK 放送科学基礎研究所 物性研究部 滝沢 國治

電話 03-415-5111 内線 305



第9回光学シンポジウム

第9回光学シンポジウムを下記の要領にしたがって開催いたします。多数の会員が参加されることを期待いたします。

日時：昭和59年6月5日(火) 9:30~17:00

場所：東京大学生産技術研究所3階第1会議室

東京都港区六本木 7-22-1

地下鉄千代田線乃木坂駅下車徒歩3分、日比谷線六本木駅下車徒歩5分

参加費：一般 1,000 円、学生 500 円 (ともに予稿集代を含む)

プログラム：

午前の部 (9:30~12:40)

1. 顕微鏡用自動焦点装置 オリンパス光学 堀川 嘉明
2. TCL センサーモジュールを用いたビデオカメラ用オートフォーカス 小西六 坂野 誠
3. 光ディスクの新焦点検出方式 ソニー 大里 潔, 山田 隆俊
- 休憩 (10 分) ——
4. LiNbO_3 光導波路の光学損傷の基礎検討 キャノン 半田 祐一, 宮脇 守, 小倉繁太郎
5. イオンエッチングによるホログラム格子の鋸歯状化 日本電気 小菅 和弘, 須釜 成人, 小野 雄三, 西田 信夫
6. AO 偏向器を用いた高速レーザー偏向と円筒レンズ効果補正 日立中研 保坂 純男, 瀬谷 英一, 原田 達男, 高梨 明敏
7. ホログラフィ法による半導体微細素子の形成 松下電器 野村 登, 松村 隆吉, 米沢 武敏, 釘宮 公一

午後の部 (13:40~17:00)

8. 新しい写真電送装置について 日本光学 鶴田 匡夫, 杉森 四郎, 河原 厚, 木村 真琴
9. 屈折率分布ロッドを用いた光ピックアップレンズの設計 電総研, タムロン* 菊地 啓介, 向谷 仁志*, 三橋 慶喜
- 休憩 (10 分) ——

特別講演

レンズ設計への収差論の応用と正規化の問題について キャノン 松居 吉哉

—— 休憩 (10 分) ——

10. 大出力レーザー用 KCl 素材の開発 堀場製作所 桜木 史郎, 小谷 晴夫
11. KCl 光学部品の開発と評価 松下技研 宮田 威男

問合せ先：〒243-02 神奈川県厚木市飯山 1583

東京工芸大学工学部写真工学科 畑田豊彦

電話 0462-41-0454 内線 112